

区分・種別	重要文化財(工芸品)		
名 称	たち 太刀 1口 銘 助包		
所 在 地	松山市堀之内（愛媛県美術館）		
所 有 者	東雲神社	管 理 団 体	
指定年月日	昭和3年4月4日		
解 説	太刀は、刃長72.8cm、反り2.5cm、^{しのぎ}鎬造、^{いおりむね}庵棟、反りが高く、ふん張りがある。^{きた}鍛えは^{もくめ}杣目板目交りでよくつんでおり、^{じにえ}地沸がよくついている。刃文は小乱れ、沸出来で丁字映りがある。帽子は乱れ込んでいる。^{なかご}茎は^{すり}摺上げ、^{めくぎ}目釘穴は4個である。銘は「助包」と2字刻してある。 鎌倉時代の備前国古備前の数少ない遺品の一つである。 松山藩士山本権兵衛義安の父山本義純が所用したもので、豊臣秀吉から拝領したものと伝えられ、明治14（1881）年、その子孫である山本義弘が東雲神社に奉納したものである。		

